

トピックス **ぶらす**

10/27~28

**大好評！「登米市の食材」**

「登米おいしいもの市・秋の市」が10月27日、28日の両日、仙台市勾当台公園市民広場で開催されました。新米、大根、しいたけ、油ふ、漬物、登米産牛のくし焼きなど市内産の農林産物の販売や、郷土料理の「はっと汁」が無料で振る舞われました。また、地元産の新米などが当たる大抽選会も行われ、会場には多くの買物客が訪れていました。



▲新鮮な食材を求め、多くの買物客が訪れました

10/31

**カボチャでランタン作製**

ハロウィーンパーティー（市国際交流協会主催）が10月31日、迫公民館で開催され、関係者と市民約130人が参加しました。パーティーは、料理などを一人一品持ち寄る「ポットラック」形式で開催。参加者は魔女や恐竜、侍などに仮装したり、大小さまざまなカボチャを使ってランタンを作ったりしながら、楽しいひとときを過ごしました。



▲持ち寄った料理を楽しみながら交流する参加者

11/1

**疎開当時の思い出のメニュー**

ヒストリーカフェ「食べてみよう！疎開学童が食べたもの」が11月1日、東和町の不老仙館で開催されました。これは、食事から地域の歴史を学ぼうと市歴史博物館が主催したもので、当日は地域の住民や疎開体験者などが参加し、疎開当時の話や、ジャガイモを混ぜたすいとん、大根の漬物など当時に再現したメニューの食事体験が行われました。



▲疎開当時の食事を通し交流を深める参加者

11/6

**安心・安全な交通社会の実現を**

交通ルールやマナーに対する意識の向上を目指し、交通事故を撲滅しようと11月6日、登米祝祭劇場で第40回宮城県交通安全県民大会が開催されました。式では交通安全作文の朗読や各種功労者の表彰が行われ、受賞者を代表して市交通安全指導員の菅原晃さん（石越）が「さらに精進を重ね、安全な交通社会の実現に努めたい」と述べました。



▲県内から多くの交通関係者が参加しました

**登米で河北杯争奪登米地方囲碁大会  
日ごろの鍛錬の成果を今こそ**

河北杯争奪第20回登米地方囲碁大会が11月16日、登米公民館を会場に市内外から多くの囲碁愛好家が参加して開催されました。大会は各クラスとも参加者をランク別に3つのグループに分けた変則リーグ戦形式で、熱戦が繰り広げられました。また、大人に混じって小学生の参加もあり、大人顔負けの真剣な眼差しで対戦相手に挑んでいました。大会役員は「小学生は大人よりもずっと吸収力があるので、あつという間に強くなって大会のたびに驚かされます」と話していました。



▲多くの囲碁愛好家が参加し、熱戦を繰り広げました。



▲恒例となった「巨大かっぱ巻き」には250人以上が参加しました

**中田で「なかだの秋まつり」  
巨大なカッパ巻に大歓声**

第22回なかだの秋まつり（同実行委員会主催）が11月1日、2日の2日間、市役所中田庁舎を主会場に開催され、市内外から約14,000人が訪れました。会場では、農業祭・文化祭・菊花盆栽展のほか、野外ステージで柴田三兄妹津軽三味線ライブや爆笑!!ものまねステージが行われ、会場には拍手と笑い声があふれていました。親子連れなど250人以上が参加した「巨大かっぱ巻」では、見事114杯の巨大かっぱ巻が完成しました。また、農産物などの直売も行われ、多くの来場者でにぎわった2日間でした。

**石越で「まるごといしこしまつり」  
今年も大人気1,000人芋煮汁**

まるごといしこしまつり（同実行委員会主催）が11月2日にチャチャワールドいしこしを会場として開催、市内外から約3,800人の人が訪れ、大いににぎわいました。まつりでは、バターゴルフ大会や商工まつり、リサイクルチャリティバザーなどさまざまなイベントが行われたほか、ステージでは伝統芸能の鳥舞などの披露や温泉宿泊券が当たるお楽しみ抽選会が行われました。まつりの目玉として定番となった1,000人大鍋での芋煮汁の無料提供にも長蛇の列ができ、瞬間間になりました。



▲直径約2mの大鍋で作った1,000人分の芋煮汁が振る舞われました